

旭川小学校・旭川中学校 R7 小中連携・一貫教育推進計画

I 旭川市の小中連携・一貫教育の考え方

9年間を見通した系統的な教育活動や、小学校から中学校への円滑な接続を目指す取組を通して、子ども一人一人の学力の向上や望ましい人間形成を図ることを目的とします。

(旭川市教育委員会学校教育部教育政策課 令和6年3月作成)

II 旭川小学校・旭川中学校 目指す子どもの姿

旭川小学校・旭川中学校 目指す子どもの姿 合い言葉～つながる～					
あさひやまコミュニティ・スクール 共に学び 共に育つ					
小学校 教育目標	筋道をたてて考え 自分で判断できる子ども	強い意志と美しく 豊かな心を持つ子ども	みんなで手をつなぎ 未来を築く子ども	常にからだをきたえる たくましい子ども	
中学校 教育目標	自ら学び、知性豊かな人になる	美を愛し、豊かな心を持つ人になる		健康な身体を養い、実行力のある人になる	
小学校		確かな学力	豊かな心	夢・自尊心	健やかな体
		自ら進んで学ぶ子	自他のよさを認められる子	目標や希望をもって取り組む子	自ら心と体を鍛える子
	低学年	めあてを理解し自ら問題を解こうとする子	あいさつができ友だちと仲良くしようとする子	自分のよさに気付き目標をもって行動する子	楽しく運動しきまりを守り安全に生活しようとする子
	中学年	課題を見付け進んで考え解決しようとする子	進んで挨拶し相手のことを考えて行動しようとする子	個性伸長を図り目標達成に向けて頑張ろうとする子	目標をもって楽しく運動し健康・安全にすごそうとする子
	高学年	自ら課題をもち仲間とともに多面的に考え追求しようとする子	時と場に応じた挨拶ができ互いを思いやり温かい行動をしようとする子	自他を知り目標に向かい見通しをもって努力しようとする子	あきらめない強い気持ちで運動し健康・安全のための確かな判断で行動しようとする子
中学校	何事にも主体的・意欲的に挑むための活きた知性をもつ生徒	広い視野に立ち他者を思いやりながら行動できる心豊かな生徒	夢や希望の実現に向けよりよい生き方を目指す生徒	自己実現に向けて最後までやり抜く強い心と体をもつ生徒	
求められている力	 探究する力 課題に対して、根拠を明確にして自分の考えを、説明できる。	 気遣う力 他者の利得や幸福を考えて行動できる。	 貢献力 自分が集団や社会の中で、「役立っている」と感じ取ることができる。	 やり抜く力 目的達成のために、あきらめずに粘り強く行動できる。	
実態把握方法(例)					

Ⅲ 旭川小・旭川中の連携・一貫教育のあり方

～9年間を見通しためざす子どもの姿を実現するために～

あさひやまの地域全体が「1つの学び舎」として機能
⇒地域全体で目指す児童生徒像を共有

★旭川中・旭川小は、連携・一貫校として「何ができるか」
9年間を見据え「一貫・連携」して行えることを整理



小中の緩やかなプラットフォームづくり

児童生徒の成長への期待
「わくわく感」の共有

小中教職員間の「学び合い」
中学校教職員の専門性を生かした指導 ⇄ 小学校教職員のきめ細やかな指導

児童生徒が日常的に「交流」ができる環境をつくる
小中教職員間で日常的に「打診や根回し、会話」ができる環境をつくる



○教職員の意識改革による小中それぞれの良さを取り入れた実践
○「一貫・連携」して行うことを教育課程に位置づけ計画的に実践

Ⅳ 小中で「一貫」して行うこと

1 「目指す子どもの姿」の実現を目指す一貫した学力・体力向上の取組の実施

○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に位置づけ、各教科等の学びの充実を図る。

Action A

小中教科部会における児童・生徒の成果と課題の共有と小中各教科全体計画のアップデートに基づく9年間を見通した授業改善〈研修〉

Action B

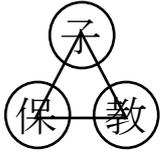
中学校体育専科教員の乗り入れ授業をきっかけとした、スポーツテストの分析結果に基づく、系統的で専門的な指導の充実〈保体〉

Action C

東旭川のよさを探究する「総合的な学習の時間」の単元設定の工夫〈教科横断的な視点、異学年交流など〉〈教務〉

2 「目指す子どもの姿」の実現を目指す一貫した生徒指導

○生徒指導提要に基づき、一人一人の児童生徒理解に基づく共通した生徒指導を行う。



子ども（児童生徒）、保護者、教師の3者で、子どもの未来像を共有
⇒ 子ども一人一人の望みや特性に応じた、9年間一貫した生徒指導

Action A

発達支持的生徒指導

- 児童生徒交流活動による中1ギャップの解消と自己有用感の高揚

Action B

課題予防的生徒指導[課題未然防止教育]

- 9年間を見通した、発達段階に応じた生活のきまりの作成（デジタルシティズンシップ含む）
- 小中合同研修を活用した、いじめ（疑い）・不登校（傾向）・問題行動の未然防止に向けた指導の共通実施
- 児童生徒交流活動（いじめノックアウトキャンペーンなど）

Action C

課題予防的生徒指導[課題早期発見対応]

- 要支援児童生徒（いじめ（疑い）・不登校（傾向）・問題行動・家庭環境等）の事案交流

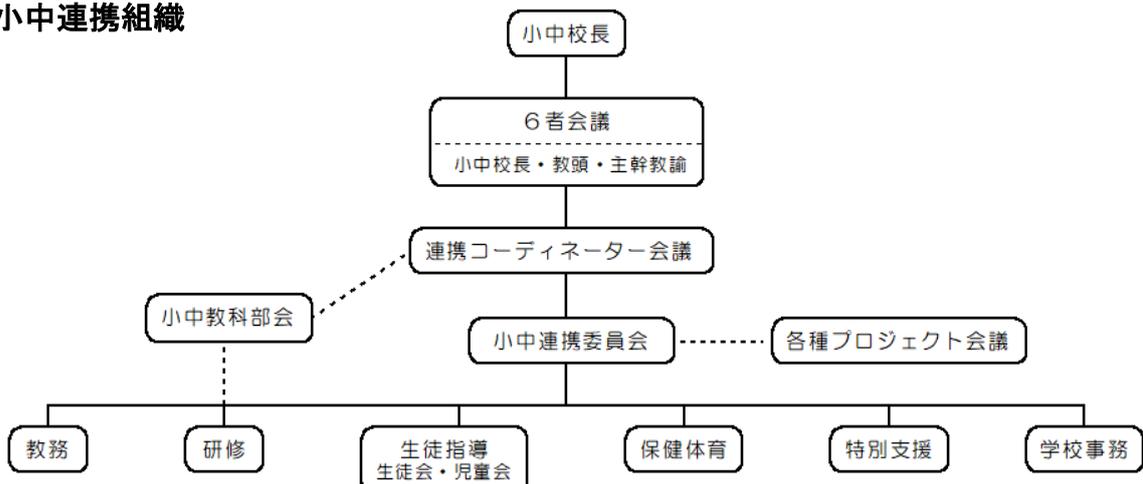
未然予防と初期対応を重視

小中合同研修
日常的な交流

充実

V 小中で「連携」して行えること—実務編—

1 小中連携組織



- 2 **小中連携委員会の開催【連携C・各分掌部長】**
 - 小中各分掌部長により、小中の教育活動の連携・調整・確認（情報共有）を行う。
 - 定期的に開催し、反省・改善を行う。（4月・8月・1月 *8月・1月は長期休業中）
 - （例）・推進計画の進捗状況確認 ・行事予定の調整 ・日課の調整
 - ・合同研修の具体化 ・各種調査の分析交流 ・グラウンド使用割り振りの調整
 - ・ICT活用に係る情報交流 ・生徒指導に関する情報共有
 - 1月（第3回）は、1年間の成果を検証し、次年度にむけての改善策の検討を行う。
- 3 **各種プロジェクト会議【担当者・連携C】**
 - 特定の取組・活動に関わる教員が一堂に会し、その実施に向けて具現化を図るために、連携して、計画・調整・確認等を行う。
 - （例）・小中合同研修（教務部長・研修部長・生徒指導部長・連携C）
 - ・相互乗り入れ授業（授業者及び受入学年団）
 - ・児童生徒交流会（小6・中1学年団）
- 4 **Google Classroom、Chatを活用した情報共有（旭川小・旭川中 教職員）【全教職員】**
 - 小中全教職員に周知すべき事項や分掌間の連絡ツールとして活用する。
- 5 **地域への発信【管理職・主幹等】**
 - 学校便りや学校HP、または学校運営協議会を活用した、小中が連携・一貫した教育活動の理解促進を図る。
- 6 **PDCAサイクルに基づく連携・一貫教育【全教職員】**
 - 小中連携委員会の定期的な実施を軸に、小中連携・一貫教育に関わる事業について評価・改善を図りながら推進できる体制を構築する。
- 7 **学校評価項目の共通化【連携C・管理職】**
 - 児童生徒及び保護者アンケートの質問事項を揃える。
 - 小・中学校の評価結果を総合的に捉えて、中学校区としての実態を把握する。
 - 経年変化から子どもたちの変容を見取り、発達段階に応じた適切な教育活動が展開されているかどうかを検証し、今後の改善に役立てる。

VI 小中で「連携」して行うことー教育活動編ー

- 1 **相互乗り入れ授業【教務】**
 - 教員の専門性を生かした指導により、児童生徒の資質向上が期待できる。
 - 実施する教科や内容は、教職員のリクエストを尊重する。
 - R5の実績：小学音楽、小・中学体育 T2、中学食育、小学理科 小学社会
 - R6の実績：小学音楽 小学体育 中学食育
- 2 **小学校夏季休業学習サポートへの、中学生による学習支援【教務】**
 - 中学生の自尊感情、自己有用感を高める。一方で、小学生が中学生に対して憧憬・感謝の気持ちを抱く上で効果的な取組である。
- 3 **参観日の相互交流【教務】**
 - 教務間で日程を連絡し合い、小中各教務がそれぞれの教職員に案内する。
 - 時間のある教職員は、率先して授業を参観する。（最低年1回は）
 - ・小学校：時間割や補欠指導体制の確立していく。
 - ・中学校：特別な時に限らず、空き時間にいつでも参観する。
- 4 **中学校学校祭への小学生の参加【教務】**
 - 中学生の自尊感情、自己有用感を高めることが期待できる。
 - 小学生が、合唱を鑑賞することにより、中学生の自主的、自治的な活動に触れ、人間関係づくりの大切さを再認識させる。※中学生の歌声の素晴らしさに衝撃をうける。（小学生）
 - ・中学校音楽教諭による乗り入れ授業：学習発表会に向けての合唱練習では、非常に効果的である。
- 5 **進路説明会の小学校保護者への案内【教務】**
 - 保護者が早い段階で進路を考える上で、価値のある活動となっている。

- 6 中学校「旭中版 中学生の学習」の小6への配付及び指導【教務】⇒(R6年度見直し)
- 中学校教諭が、小6対象に中学校での学習について進学前に事前指導する。
⇒配付時期については、6年生学年団の要望に合わせる。
 - 中3による、学習ガイダンスの実施(3月上旬 公立高校の一般入試日に合わせて)
- 7 小中一貫したキャリア・パスポートの活用【教務・中連携C】
- 9年間を通して、キャリアパスポートの取組と引き継ぎを行う。
 - 新入生引き継ぎ時に指導上配慮を要する生徒についてキャリアパスポートを参考資料として活用する。
- 8 児童会・生徒会の交流【生徒指導】
- 本部役員及び委員会活動の連携※小中合同で実施、または中委員会が小学生のために行う企画等
 - 中学校側は「振る舞い教育」の観点から小学生の模範となるような行動やその自覚を育むことにつながっていたかどうか、小学校側は、中学生の姿を見て、今後の生活に向けた良い道しるべとなっていたかという視点から評価する。
- 【これまでの実績】
- 児童会・生徒会本部それぞれの活動交流会 / 小6対象クイズ大会の実施
 - 文化図書委員会：小1への本の読み聞かせ活動 / 図書室交流
 - 保体委員会(協働)：昼休み遊び交流(中学校保体委員会で企画、前後期各1回程度)
 - 報道委員会(協働)：中学校生活が始まった中1の感想を小6へ広報 / 放送体験
 - 生活委員会(協働)：玄関指導における啓発ポスターの連携
 - 美化委員会(協働)：小運動会前のグラウンド石拾い、玄関前花壇づくりと片付け
- 9 小中合同あいさつ運動【生徒指導】
- 児童会本部、生徒会本部、小中生活委員会が協力して、登校時校門前や玄関廊下で「あいさつ運動」を実施し、あいさつの大切さを啓発する。
- 10 児童生徒交流会(小6・中1)【生徒指導】※R6は、小学校参観日に実施12月
- 小6児童の中学校進学、ひいては進路・人生に関する悩みや質問に、中1生徒が小学生の将来を見据え、アドバイスをするピアサポート的な異年齢交流活動とする。
 - 小学生にとって、中学生に対する憧れ・尊敬の気持ちを抱き、中学校進学に対する不安を解消し、希望をもたせる。
 - 小学生の模範になろうとする意識の高揚、小学生の役に立てたという実感から生じる自尊感情・自己有用感の高まり、これらによる予防的な生徒指導へと繋げていく。
 - 児童・生徒の実態に合わせて、実施形態を柔軟に変更していく。
 - スプレッドシートを活用した共同編集により、事前準備をスムーズに行う。
- 11 小中合同避難訓練【生徒指導】
- 小中で危機管理意識を共有する。(火災を想定しての避難訓練を6月に実施)
 - 教職員の防災訓練(研修)を隔年実施する。(防災盤の操作方法、消火栓、消火ポンプのリセット方法など)。※R5実施のため、今年度実施予定
- 「12 昼休み遊び交流(保健体育)」を「8 児童生徒交流会に組み込んだ」
- 12 小中それぞれの、体力・運動能力調査の分析結果の交流【保健体育】
- 小中共通の体力・運動能力の課題を明確化し、次年度にむけて共通の解決策を立案する。
- 13 養護教諭間の連携【保健体育】
- 児童生徒理解、兄弟間の体調不良時対応、感染症対応を共有化する。
- 14 小中一貫した特別支援教育の実施【特別支援】
- 児童・保護者の中学校担当者との事前教育相談、担当教員の交流、小中合同授業など。
R6年度：知的学級合同自立活動
- 15 部活動・少年団連携【担当者】
- 小学校体育館の部活動での使用。
 - 中学校部活動と少年団との合同練習における小学生の技能向上など協力関係を築く。
- 16 各種検定の合同実施【担当者】
- 漢検及び英検の合同実施を行う。